

十月八日
雨天
泥濘坂あり
嘉善至ル

一昨夜ノ猛雨依リ道路作日ヨリ甚シ、

午前六時十分指営地ヲ出奔スト虽モ泥濘細路ノタメ前進遅々タリ、

指営地出奔一五〇米附近ニテ巾四十米ノクレークニ遭遇、舟一艘ヲ以テ渡河シ泥濘

坂ヨリニ秤奥激決ヲ出奔セルハ突ニ午前十一時十分ナリ、再ビ悪路ヲ犯シ疲勞困

憊セル身体ニ宮打テ前進ヲ續ク、

ニ午後一時頃本道(金山—楓經鎮道)ヲ我友軍砲兵行進スルヲ察見一同慨然

喜色歡呼ノ声ヲ揚ゲ

午後一時十分楓經鎮着、爆撃ノ跡甚ダシ、午後四時迄休憩ス、

此地兵站アリ上陸以來始メテ乾パン(半食分)ノ配給ヲ受ク

三午後三時急行軍ヲ以テ嘉善ニ向フ道路巾廣シト虽モ新道アルタノ邊ナリ或ハ

重砲、榴重等ノ行進ヲ妨害スルモノアリシモ楓經鎮以南ニ比スバ著シク行軍

容易トナレルモ疲勞累積シ道遠キヲ感ゼシム、

午後八時十分軍旗ヲ受シテヨリ一ヶ月目嘉善城ニ入城ス、本城内モ亦爆撃ヲセ

ラレアリ。

歩一吾作命第 號

十一月十八日午後三時五分
於楓經鎮西端

歩兵第百五十聯隊命令

一敵情ヲ執ラハ別ニ示ス

ニ旅團ハ楓經鎮附近ニ兵力ヲ集結シ更ニ嘉善ニ向ヒ急進ヲ續行ス

前衛ハ楓經鎮西端附近ニ停止前方ヲ警戒中

ニ聯隊ハ楓經鎮西端附近ニ兵力ヲ集結シ更ニ嘉興ニ向ヒ急進ヲ續行セン

トス、各隊ハ別ニ指示スル所ニ依リ兵力ヲ集結シ後命ヲ待ツベシ

四谷隊并隊集結地ニ在リ

聯 隊 長 山 本 中 佐

下達法令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

歩兵第百五十聯隊 號

歩兵第百五十聯隊命令

十一月十八日午後三時五十分
於楓經鎮西端

0194

一、師團ハ本夜嘉善ニ宿営ス

旅團ハ嘉善^{西端}宿営ス、先遣隊ハ嘉善西方約四料地点附近ニ宿営シ前

任務ヲ續行ス

前衛ハ嘉善西端ニ於テ警戒ニ任ス、

二、聯隊ハ本夜嘉善西端ニ露營セントス

各隊ハ別ニ示ス所ニ依リ露營スベシ

三、露營區内ノ警備ハ露營司令官ニ於テ區置スベシ

四、露營司令官ハ第一隊長見森歩兵少佐トス

五、給養ハ携帶口糧ニ依ル可シ其補給ハ各隊毎ニ現地ニ於テ調弄シ置ク可シ

六、余ハ楓経鎮出發後露營地聯隊本部ニ在リ、

聯隊長

山本中佐

下達法命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

歩兵第百二十八旅團命令要旨

十月十八日午後二時
於楓経鎮西端

一、旅團ハ楓湮鎮西端附近ニ兵カラ集結シ嘉興ニ向ヒ續行セントス
 二、先遣隊ハ現在位置附近ニ停止シ旅團ヲ待ツルヲ命ジ（現在位置楓
 湮鎮西側附近）
 三、前衛ハ楓湮鎮西端附近ニ停止シ前方ヲ警戒スベシ
 四、本隊各隊ハ別ニ示ス所ニ依リ兵カラ集結シ後命ヲ待ツ可シ
 歩兵第百二十八旅團命令要旨 十一月十八日午後三時四十分
於楓湮鎮
 一、前衛ハ嘉善西端ニ於テ警戒ニ任スベシ
 二、本隊各隊ハ嘉善西端ニ於テ別ニ示ス所ニ依リ宿營スベシ
 露营地ニ於ケル警戒ハ各部隊毎ニ実施ス可シ、旅團ハ一五〇ルノ
 露营地ニ含ム
 三、給養ハ携帶口糧ニ依ル可シ
 其ノ補充ハ各隊毎ニ現在ニ於テ調停シ置クベシ

上月十九日
嘉善ヲ去リ
嘉興ニ到ル

人馬現況

將校	下士官	兵	計	乘馬	騎馬	駄馬	計	備考
八	二	七八	九八					

通信班一等兵平林治太郎楓経鎮ヲ入院ス

六午前の時五分暗黒ノ中ヲ嘉善城門外ニ集合、嘉興ニ向ヒ前進
不、連日ノ行軍ヲ疲勞甚カシキ所ニ雨ト泥濘加アルニ休憩ナシ
強行軍ニ爲リ、矢ノ困苦ハ言語ニ絶セリ、

午前十時四十分嘉興ニ到着ト、虽モ嘉興ハ我部隊ノ到着ナリ
ニ落チタリ、午後三時ヨリ歩兵百五十聯隊ハ城内尤早分百十五
ハ右半分ヲ掃蕩シ宿營ス

二行今更ニ多敷軍事機密書類ハ臂刀ニ依リ携行シ困難ヲ

極ム、

三当地形は於所謂南北馬ノ言ニ徴シ迅速ナル機動ノタメ民船
汽艇及幹線道路ニ自動車ヲ利用スルノ計画準備ヲ平時調査
ニ依リ詳画スルノ要アリ

歩五〇作命第 號

歩兵第百五十聯隊命令

十一月九日午前四時
於 嘉 善

一嘉興ノ敵ハ時機ヲ失セテ遠スルノ虞アリ 師團ハ本朝神速ニ嘉
興ノ敵ヲ捕促撃滅セラル後湖州ニ向ヒ追撃ス

歩兵第百六十聯隊ハ本朝午前四時嘉善城門ヲ出テ并ニ鉄
道線路ヲ嘉興ニ向ヒ前進シ杭州ニ至リ鉄道線路ヲ遮断シ且嘉
興ノ敵ヲ西南方面ヨリ東北方ニ向ヒ攻メテ

奥旅團ハ嘉興ノ敵ヲ捕促撃滅シ目的ヲ以テ午前五時嘉善北
方約一キロ鉄道線路踏切リヲ出テ嘉善—嘉興道ヲ嘉
興東北側ニ向ヒ前進ス

ニ聯隊ハ嘉興ノ敵ヲ捕促撃滅ノ目的ヲ以テ嘉善一嘉興道ヲ嘉興
東北側ニ向ヒ前進セントス

ニ第三大隊(欠ニ中隊)ハ前衛トシテ午前四時三十分尖兵ノ先頭ヲ以テ
嘉善北方約一軒鉄道線路踏切ヲ先頭トシ集合スベシ

四爾余ノ諸隊ハ本隊トス昨日ノ序列ヲ以テ午前四時三十分迄ニ嘉
善北方鉄道線路踏切路ニ集合スベシ

余余ハ午前四時三十分旅團本隊ノ先頭ニ在リ

聯隊長 山本中佐

下連法命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

歩一五〇作命第 號

歩兵第百五十一聯隊命令 十一月十九日午後五時
於嘉興西北端

ハ敵情ニ関シテハ新報ヲ得ス

ニ本十九日夜聯隊ハ旅團命令ニ基キ本十九日夜現在地附近ニ露

營又 露營司令官步兵第三旅團長

露營日直將校二五聯隊第五大隊長信澤步兵少佐

三各隊八設營者ノ指示ニ依リ露營スヘシ

四警戒ノ爲メ勤務員ヲ差出シ露營日直將校ノ指示ヲ受ケ可シ

巡察將校所 早川少尉 露營衛兵第六中隊ノ一隊

五本部直轄警戒トシテ第八中隊ノ一隊

六緊急集合場ハ聯隊露營中學校トス

聯隊長 山本中佐

下達命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

旅團命令受領者

十月十九日午前三時五分
於 嘉 善

ハ第五大隊(又中隊)ハ前衛トシテ午前四時三十分突兵ノ先頭トシテ

ヲ嘉善地方約一軒鉄道線踏切ヲ先頭トシテ余ノ部隊ハ一

五〇里ノ故村ハ残余ハ一順序ニ前衛ノ直後ニ上速ノ

線路踏切——北門——露営地道上ニ集合スヘシ前衛ト本隊

ノ距離ハ夜間約三百米、晝間約五百米トス

人馬現況

將校	下士官	兵	計	乗馬	輓馬	駄馬	計	備考
八	三	七八	九八	/	/	/	/	

十月三十日
雨天

嘉興より
平望鎮に至

午前七時十分嘉興出發、南潯鎮ニ向ヒ前進セリ、新勝鎮ニ通ル道
路ヲ140ノ順序ヲ以テ行進セルモ道路中途ニテ無ク、爲ニ予定ノ夜更
道ヲ引返シ140ノ順序ヲ平望鎮ト向リ、十余里ノ長途行軍ヲ聯隊長
以下徒歩加フルニ雨ノタメ疲勞甚カシ、若キハ落後者ヲ生ズ

午後九時暗黒ノ中ヲ平望鎮ニ到着セルモ鎮外ノタメ宿ルニ家ナク糧又

無し

ニ聯隊長以下晝食ノ残飯ヲ粥トシ塩ヲ舐メテ食トス

歩兵第五師 號

歩兵第五師聯隊命令

十月二十日午前六時
於嘉興

一敵綏軍ハ其ノ指揮組織混亂シ既ニ敗戦ノ色濃厚シテ其ノ主カハ
江陰、無錫ノ線以西ノ地區ニ集結再建セント狂奔シアルモノハ如シ
軍隊ノ士氣ハ既ニ全ク沮喪シアリ

集團ハ機ヲ失セバ一舉南京ニ向テ追撃ス

田崎支隊ハ主力ヲ以テ嘉興湖州廣徳ヲ經テ蕪湖ニ向テ推進シ敵
ノ退路ヲ遮断ス

如ハ蘇州廣徳漂水ヲ經テ南京ニ向テ追撃ス

60ハ淞江ヲ經テ蘇州ニ前進シ南京ニ向テ追撃ヲ準備ス

師團ハ連カニ湖州長興漂陽ヲ經テ南潯鎮ニ向テ前進ス

旅團ハ本ニ日宿营地出發新塍ヲ經テ南潯鎮ニ向テ前進ス

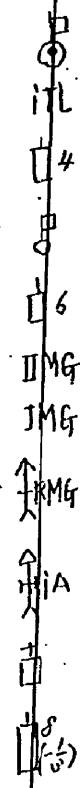
ニ聯隊ハ旅團本隊トナリ新塍鎮ヲ經テ南潯鎮ニ向テ前進ス

0202

三、第七中隊ハ旅團ノ先遣隊トナリ歩一八旅團作命第八號第三項ノ任務ニ服ス可シ

四、第五中隊ハ野戦重砲兵第十四聯隊長ノ指揮ニ入り同隊ノ掩護ニ任ス

五、第八中隊ハ一小隊ハ示令旅團直接掩護隊トシテ行動スベシ
六、諸隊ノ集合及行軍序列左ノ如シ



午前七時半分現在地ニ集合シ逐次行軍序列ニ入ル可シ

七、予ハ聯隊主力ノ前方ヨリ前進ス

聯隊長 山 本 中 佐

下連法 命令受領者ヲ集メ口達筆 記セシム

歩五〇作命 第五

歩兵第五百十聯隊命令

十一月二十日午後十時
於 平 望 鎮

一敵情ニ関シテハ新報ヲ得ズ

ニ師團及旅團ハ平望鎮及其南側ニ宿営ス

三歩兵第百五聯隊ハ旅團命令ニ基キ平望鎮南側ニ露営セントス

四各隊ハ中條少尉ノ指示ニ依リ露営スベシ

五露営司令官 奥少將

露営中隊將校 歩二十五聯隊第某隊長

連隊將校 佐 吉 少 尉

六給養ヲ携帶口糧申テ使用其補給ヲ徵索トス

七余ハ現駐地ニ在リ

聯 隊 長 山 本 中 佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

旅團命令要旨

十月三日午前五時
於 嘉 興

一旅團ハ本日宿営地出發 新塢鎮ヲ經テ南潯鎮ニ向ヒ前進ス

0204

上月三十日
雨天
平望鎮ヲ
去リ南潯
鎮ニ至ル

ニ歩百五十聯隊ノ中隊ハ旅團ノ先遣隊トナリ前衛ノ前方ヲ南潯鎮
ニ向ヒ前進スベシ
三歩百五十聯隊ノ中隊ハ差出シ野戰重砲兵第十四聯隊長ノ指揮
ニ入リ同隊ノ掩護ニ任スベシ
四歩百五十聯隊ノ旅團直接掩護隊（兵力ハ小隊）ヲ差出ス可シ
人馬現況

將校	下士官	兵	計	乘馬	輕馬	駄馬	計	備考
ハ	一	セハ	九ハ	/	/	/	/	

一、現林山佐ハ先遣隊長トシテ午前七時出發、本隊ハ午前八時平望
鎮出發、雨ニ加フルニ北風強ク更ニ昨日同様ノ強行軍ニ困難ヲ極メ
一般ニ疲労ヲ累積ス
午後三時南潯鎮着宿營ス

0205

(28)

步兵五〇作命第五號

步兵百五十聯隊命令

十月二十日午前四時
於平望鎮

〔國崎支隊ハ昨日午後三時五十分（南潯鎮西方約十五キロ）附近ノ敵ヲ
攻歟中ナリ、

昨日二十日夜七夜橋以南地又ニ宿營ス

平望鎮

南潯鎮連ハニ

橋梁

ヲ破壊シアルヲ徒歩部隊

通過ニ支障アリ

如シ

師團ハ今朝南潯鎮ニ向ヒ追撃ヲ續行ス

秋山旅團ハ今朝奥旅團ノ後方ニ移リ前進ス

奥旅團ハ今朝南潯鎮ニ向ヒ追撃ス

二聯隊ハ旅團本隊トナリ南潯鎮ニ向ヒ前進ス

三鬼森少佐ハ先遣隊長トナリ却下一中隊及工兵一小隊ヲ併ヤ指揮シ

歩三八旅作命第五十號第三項ニ依リ任務ス

0206

云、左ノ勤務人員ヲ差出レ露營曰直將校ノ指テウ受ケシムベシ

此等將校

付 隊 少 尉

露營衛兵 第六中隊ノ一ケル隊

露營老集合場ハ南邊鐵西北端畑地トス

中ノ小南露營並ニ中央ニ位置ス

露營司令官 山 本 井 兵 中 佐

下連法命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

注意

一、コレヲ露營シアルヲ以テ該露營全地通過ニ絶対ニ入ルヲ禁ム

二、露營ハ各隊毎ニ露營全ヲ期スルコト

三、生水ノ飲用ヲ絶対ニ禁止ス

四、放火矢火等ニ付テハ嚴ニ注意スルコト

情報

一、此処ヨリ三里前方ニハ敵アリ

二、岡崎支隊ハ退却部隊五〇〇名ヲ全滅シ感状ヲ附具セラル

上陸以來追撃ヲ追撃ヲ重シタル兵站續カズ方ニ於テハ戦斗ヲ續

行シ南糧秣自給ニ配アリ作戰行動ニ支障ナカシムル爲メ

給米園滑リ期ニカキ師團ヲ各聯隊ヨリ中隊ヲ選拔

シテ統一シ微衆隊ヲ編成セラル

歩五〇日作命第 號

歩百五十聯隊命令

於南澤鎮聯隊本部

下歩三八旅作命第ニ基キ聯隊ハ微衆隊トシテ

中隊第一中隊中隊一小隊ヲ編成ス

編成要領左ノ如シ

一、中隊長 北澤 大尉

二、第四六七中隊ヨリ健脚ナル兵ヲ選拔シ約四十名ヲ以テテ中隊

ヲ編成ス

3. IMG

全部

ニ北澤大尉ヲ要領ニ依リ編成タル中隊ヲ指揮シ明々午前八時迄五南潁鎮師團司令部ニ至リ其隊參謀ヲ指示シ受クダ

聯隊長 山本 中佐

下達命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

旅團命令要旨 十月三日午前三時於北澤鎮

一歩兵第百五聯隊第大隊長(鬼木林少佐)ハ部下中隊及

二兵小隊ヲ併セ指揮シ先遣隊トナリ今朝午前七時迄(前二時)

師團ノ前進ヲ容易ナラシム可シ

ニ尔余ノ諸隊ハ歩兵第百五聯隊ノ一兵小隊旅團司令部

歩兵第百五聯隊ノ残余歩兵第百五聯隊ノ順序ニ

午前七時三十分迄ニ平望鎮西側鉄道踏切ヲ先頭ニシテ

0210

平野鎮 南海鎮道上三級隊(四列)三集合スベシ

人馬現況

將校	下士官	兵	計	歩兵	騎兵	騎馬	計	備考
八	一	七	九	/	/	/	/	

歩兵等米林森治腹痛 歩兵等米林森治腹痛 歩兵等米林森治腹痛

十月三日

晴大 概小雨

南海鎮 早山市電

午前七時南海鎮 依然歩兵大隊(歩兵) 午前七時南海鎮 依然歩兵大隊(歩兵)

進み午後三時頃早山市 進み午後三時頃早山市 進み午後三時頃早山市

敵有リ先遣隊之掃蕩中戦死者二名ヲ出シタリ (第六中隊)

歩兵百餘隊

歩兵百餘隊 十月三日午前三時於南海鎮

一國崎部隊ハ湖州方向 敵ヲ攻撃中ナルモノ如シ

南海鎮四方約三三米三里橋 九里橋ノ橋梁ノ敵ハ破壊セシ目下修理

中一リ

師團ハ本ヨ日昇山市ニ向ヒ敵ヲ追撃ス

秋山旅團ハ奥旅團ノ後方ニ米ヲ續行シ河西村ニ向ヒ前進ス

奥旅團ハ本ヨ日昇山市ニ向ヒ敵ヲ追撃ス

先遣隊ハ本ヨ朝指當地ヲ出發、前任隊ヲ續行ス

二聯隊ハ本ヨ昇山市ニ向ヒ敵ヲ追撃セトス

三第六中隊ハ本ヨ第一機関銃隊ハ先遣隊長ノ指揮スルニ

四其餘ノ諸隊ハ本ヨ左記行軍序列ヲ以テ午前六時三十分第一後尾ヲ先

頭トシ南濁鎮——昇山市道上ニ行軍縱隊(四列)ニ集合スベシ

日⑤ ITL 445 RM 1A 附

五余六午前六時三十分本隊ノ先頭在リ

聯隊長 山 本 中 佐

下達該各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

0212

ニ午後二時十五分旅團ヨリ歩三旅作命第三五號ノ出發命令ヲ受領
矢カヲ集結ニ前進準備ヲ整ヘアリシガ午後九時頃屏山市附近ニ露営スベキ
命令ニ接ス。依テ各隊毎ニ警戒ヲ嚴シシ露営ス

旅團命令要旨 十月三日午前二時於南潯鎮

一、先遣隊ハ本早朝宿營地出發シ前任務ヲ續行スヘシ

ニ、歩五聯隊長ハ歩兵一中隊附一中隊ヲ午前六時南潯鎮西端出發

先遣隊ニ急進セシメ先遣隊ノ指揮ニ入ル可シ

旅團命令要旨 十月三日午後五時十五分於屏山市東側

一、旅團ハ從前ノ部署ヲ以テ八里店ニ向ヒ急進セントス

ニ、先遣隊ハ前任務ヲ續行シ密ニ圍攻隊ト連絡スベシ

三、前衛ハ屏山市湖州道ヲ八里店ニ向ヒ前進ストシ

四、外余ノ諸隊ハ本隊トス行軍序列故ノ如シ

人馬現況

十月三日
曇天
昇出至五里
林安村附近
敵ト対峙
我々撤入

將校	下士官	兵	計	乗馬	驛馬	駄馬	計
八	一二	七七	九七	一	/	/	一
上等兵北原清市鼻山市ニ入院							
一八師團ヨリ傳騎一、及乗馬一ヲ配屬							
一、午前八時八里店附近ノ敵攻勢ノ目的ヲ以テ右秋山旅團、中央本道、 奥旅團左國崎支隊ノ關係ヲ以テ出發 二、午前九時八里店ニ到着スト當ニ敵ハ戰力ヲ退きタリ依リ更ニ前進スルヲ 并後零時五分數隊據東方約一軒附近ニ於テ依然ハ前方ヨリ敵猛射 ヲ受ケル 三、聯隊ハ直ニ道路ヲ開放シ部隊ヲ疎開シ歩一五ニ連絡スルモ通確ニ敵 情ヲ得ズ本旅團命令ニ依リ林准尉指揮スル半小隊ヲ本道南側ニ 出シ敵ヲ攻撃セシメ聯隊主力ハ歩一五ニ展開スルメカケリシレバ							

盪ニ依リ行動著シク阻害シレ小行李平射砲分隊ヲ本道ニ残置シ猛火ヲ冒シ第四中隊歩一カ右翼ヲ取メ機敏ニ横行シ朱吳村南方閉鎖曲線高地脚ニ至リ諸隊ヲ集結ス、

移動中敵機関銃ノ集中火及輕隊ノ阻撃ヲ受テ聯隊機関銃ノ主力ヲ制壓シ勉メタル貴傷者若干ヲ生ス

時ニ午後五時ヨリ余ニ聯隊長ヲ射砲分隊小行李ヲ本道ニ残置旅團ヲ先遣隊ニ第ニ大隊中ニ本部第ニ大隊一隊第ニ大隊ニ分隊第ニ大隊第ニ機関銃一隊ニ復歸シ聯隊來カ步兵約ニ中隊附九挺ニ過ス

四尔後付候ヲシテ渡河点及舟筏ヲ搜索セシメ更ニ將校及下士官ヲ派遣シ旅團並ニ歩一五ヲ連絡ヲ勉メ之ヲ偵察シ勉メ敵ヲ待シ

夜ニ徹ス

歩一五ヲ作命第 號

0215

步兵第百五十聯隊命令 十月三日午前七時於昇山市西端 一、敵八里店附近ニ陣地ヲ占領シ其ニ線陣地ハ湖州東端附近ニアリ ニ、聯隊ハ旅團本部ヲナリ本道ヲ北敵ニ向テ前進セントス 三、行軍序列左ノ如シ歩一二五、後尾ヲ續行スヘシ 四、歩一二五、外ハク 五、歩一二五、先頭ニナリテ前進ス 六、聯隊長 小 本 中 佐 七、下達命令受領者ヲ集メテ口達筆記セシム 八、歩一二五、作令第 號 九、步兵第百五十聯隊命令 十月三日午後四時三十分於郭家埭 一、敵情諸官ニ知レル通り、 二、旅團ハ一部ヲ以テ本道ヲ北ニ向テ前進スルヲ以テ本道以北ノ地區ニ展開シ 三、重兵ヲ當聯隊正面ニ保持シ當面ノ敵ヲ攻撃ス、
--

二聯隊ハ右二線より當面、敵ヲ攻撃セントス
 三、第七中隊、半小隊ヲテ敦家塚東南閉鎖曲線ノ敵ヲ攻撃
 セムヘシ
 四、第四中隊ハ（示隊欠）MG一、小隊ヲ附スハ第一線歩二五ノ右翼ニ連
 繫シ當面、敵ヲ攻撃スヘシ
 五、第七中隊ハ小隊、旅團豫備隊トス連リ本道ヲ前進シ旅團
 長指揮スル可シ
 六、聯隊機關銃、殘余ハ第四中隊右ニ展開シ同中隊ヲ攻撃
 ニ協力スヘシ
 七、残余（第四中隊、一、小隊、第七中隊、三、小隊トシ合隊欠）ハ予備隊
 トス、第四中隊ノ後方ヲ前進スヘシ
 八、通信班ハ☆、日、有線連絡ニ任ス可シ
 九、残余第四中隊ノ後方ヲ近ク前進ス

聯隊長 山本 中左

下達法先要旨ヲ傳ヘタル後命令受領者ヲ集メテ達筆記

歩五〇作命第 號

歩兵第百五十聯隊命令 十一月十三日正午
於朱吳村南側高地脚

敵情ニ関シハ新報ヲ得テ

自前日左側有テ

旅團本部ヲ以テ本道方面在リテ以テ當聯隊範圍内ニ
野戦重砲隊ハ先ヨリ本道方面在リテ以テ當聯隊範圍内ニ
聯隊ハ先ヨリ朱吳村附近在リテ以テ當聯隊範圍内ニ
後同村西方小

流附近ニ攻撃ヲ準備セリトス

攻撃ニ際シテハ前後庄ヨリ湖州東端學校に通スル小流以西ノ地ニ

ヨリ旧小學校附近ノ敵ヲ攻撃ス

三二(八〇)IMG(三)RMGノ三小隊ヲ屬スルハ第一線トナリ朱吳村西方約五

〇〇米ノ橋梁附近ヲ左翼トシ其ノ西北方三〇〇米橋梁ニ至ル間

ニ攻撃ヲ準備スヘシ

0218

特主部より以て右翼方面より湖州東端學校附近及湖州北門附近、
 敵情進路を搜索スヘシ
 四、小余小寺備より朱家村北端に位置スヘシ
 五、砲兵より協定事項を知らせシ
 一、射撃時機
 午前八時——今八時十五分 亦後射程延伸
 二、連絡記號
 射撃中止（日丸二本上下）
 射撃再興（△ 右左）
 六、攻撃準備八午前六時三十分迄に完了スヘシ
 七、通信班ハ 呂 II 間ニ有線通信網を構成スヘシ
 八、午前六時三十分予備隊ノ位置ニ在リ
 亦後第一線ノ後方より前進ス

聯隊長 山本步兵中佐

下達命令受領者ヲ集メテ達筆記セシム

旅團命令要旨

十月三日午後五時五十分於丹山市東側

一先遣隊ハ前任務ヲ續行シ岡崎支隊ト連絡スヘシ

二前衛ハ丹山市——湖川道ヲハ里店ニ向ヒ前進スヘシ

本隊ト巨離四〇〇米、夜間ニワロ米トス

三示余ノ諸隊ハ本隊ト入行軍序列敵如シ

旅團命令要旨 十月三日午後一時十五分於陸家汪西端本道上

ハ¹⁵⁰⁰（一中隊²）ハ約一小隊ヲ以テ敦家埭東南方閉鎖曲線高地ノ

敵ヲ主力ヲ以テ歩一二五ノ若ニ連繫シ當面ノ敵ノ左側ヲ包圍攻

撃スヘシ

他一中隊ハ旅團ヲ備トス直子ニ本道ヲ急進セシムヘシ

旅團追加命令 十月三日午後七時於陸家汪本道上

一、第一線各隊ハ朱吳村閉鎖四線、敵家塙ノ線ニ到着セハ一
一小隊ヲ前方ニ出シ搜索、據点ヲ見メ、主ノ敵情地形ヲ搜索
スベシ

二、主ノ敵陣地後端ニ停止シテ後命ヲ待ツベシ

三、先遣隊ハ今、聯隊長ノ指揮ニ復返ス
旅團命令要旨

十一月三日午後十時陸軍汪本道上

一、第一線兩聯隊ハ午前三時ヨリ渡河ヲ開始シ、午前六時三十分迄ニ
攻撃準備ヲ完了シ、各々当面ノ攻取ヲスヘシ

攻戦前進開始ノ時機ハ午前八時十五分トス
砲兵ノ効力射ハ
電話ヲ以テス

二、第一線奪取後ノ處ハ別命ス

三、予備隊タル歩兵第五聯隊ノ第七中隊ハ午前七時三
十分迄ニ陸軍汪西方無名部落ニ至リ、第一線ノ攻戦
前進ニ伴ヒ、其中央後約千メートル前進スヘシ

本日ノ人馬現況				歩一五〇本部	
將校	下士官	兵	計	乗馬	鞍馬
ハ	二	七七	九六	一	／
一、技術伍長			本間 新	戦傷ノタメ入院	
二、上等兵			岡村 一郎	今 右	
三、二等兵			林 茂 治	帰 還ス	
四、軍曹			永井 勘	戦傷ノタメ入院スル コトヲ本隊ト行動ヲ共ニス	

一、午前三時第五天隊ハ渡河ノタメ前進ヲ開始ス 聯隊長カハ小澤少將ヲミテ渡河作業隊ト連絡セシメ午後四時十五分出
 隊令五時三十分渡河ヲ完了ス
 午前六時三十分朱良村西端ニ至リ歩一五聯隊長ト直接協
 定ヲ遂ゲ次ニ現地ニテ師團長ノ企圖ヲ報告シ是諒セラ

朱良村ヲ
 去リ湖州ヲ
 經テ長興
 ニ向ヒ退
 却ス

月三
 日
 晴
 天

0222

ル、

午前八時頃より砲兵ハ予定如ク射撃ヲ開始シ數タル爆音ト共逐次敵陣地ヲ粉碎シ攻撃ノ成功ヲ思ハシム

午前八時五分攻撃前進ニ移リケルモ砲兵ハ依然射撃ヲ繼續シアルタメ射撃中止ヲ要求シ城壁近ク肉迫ス

午前九時頃城壁及前方部落ヨリ敵^位射撃ヲ受ケタル爲聯隊ハ一時停止シ左ノ處置ヲナレタリ、

歩兵百五十聯隊命令

十一月十四日午前九時
於湖州縣東城角地

一、Rmg一小隊ヲ以テ右煙突部落ノ方向及左方獨立家屋方向ニ對シ陣地ヲ占領シ敵ヲ求メテ射撃スベシ

二、第四中隊ヨリ任候ニ組ヲ出シ右方部落及獨立家屋方向ノ敵情ヲ搜索スベシ

三、其余ノ諸隊ハ地形ヲ利用シテ停止スベシ

聯隊長 山本歩兵中佐

下達命令受領者ヲ集メ口達ス

ニ各隊ハ午前九時三十分歸来シ該方面ニ敵兵ナキ事ヲ報ス次ニ第四中隊ノ一隊ヲシテ煙突ノ家屋ヲ占領シ命ス

第五大隊ハ敵火ヲ冒シ湖州東端ニ至リ攻撃目標タル学校^附ヲ搜索シツ城壁及橋梁ニ據ル敵ヲ攻撃ス

聯隊長ハ第五大隊長ノ許ニ到リ當面ノ敵情及地形ヲ聴取シ第五大隊ハ極力此ノ敵ヲ攻撃スベキヲ命ス

午^前十二時三十分聯隊長ハ第四中隊ノ奪取^シル^ル条電所ニ到リ該方面ノ敵情地形ヲ搜索セシム

午後三時五十分飛行機ノ通報ニ依リ國崎支隊ハ湖州城内ニ侵入シ巨下殘敵掃蕩中ニシテ敵ハ算ヲ乱シテ其ノ主力ハ長興ニ一部ハ廣徳ニ向ヒ退却中ニシテ連^ニ敵退路ヲ遮断スル如ク行動スルヲ適當トスル情報ヲ明ニス續イテ湖州城内ヲ攻撃スルハ要^ナキヲ判斷シ聯隊長ハ獨断此ノ敗走中ノ敵ヲ追撃スベク決シ左ノ命令ヲ下達シ午後四時同地ヲ出發前

聯隊長 山本步兵中佐

下達命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

歩五〇作命第 号

歩兵百五十聯隊命令

十一月十四日午後六時
於湖州西北端

ハ敵ハ算ヲ乱シテ西方ニ退却中ナリ

旅團ハ速ニ密水橋(湖州西方約八村)ニ進出シ敵ノ退路遮断ヲ企

圖ス

ニ聯隊ハ旅團本隊トリ湖州——密水橋道ヲ密水橋ニ向ヒ前進セシム

ニ聯隊ハ午後六時三十分迄ニ左記順序ニ南面シテ現在地ニ集合スハ

シ、
●ITL ⅡP 哈 8
IMG RMG 1/6

四余ハ聯隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

聯隊長 山本中佐

ニ右命令ヲ下達シテ前進ヲ待テモ前衛タル歩兵第百五十聯隊ハ部隊

ノ集結完了セズ前衛進延シ敵ヲ遁スルノ虞アルヲ以テ聯隊長ハ自

0226

前衛タル可ク意見具申ヲナシ之ヲ認可セラレ步兵第百十五聯隊ニ代リ前衛
ヲ命ゼラレ午後七時頃第百四中隊ヲ尖兵中隊トシ湖州北門附近ヲ出發シ
水田、クリーク間ノ細路ヲ求メ前進ス

旅團命令要旨

十一月二十四日午後五時五十分
於湖州東北端

一、旅團ハ速カニ密水橋（湖州西方約八軒）ニ進出シ敵ノ退路ヲ遮断セシ

トス

二、步兵第百十五聯隊ハ前衛トナリ本隊ノ前方約五〇〇米ヲ密水橋ニ

向ヒ追撃スヘシ

三、步兵第百五十一聯隊ハ旅團本隊ナリ旅團司令部ノ後尾ヲ續行

スヘシ

所見、

一、追撃戦ノ結果上陸以來糧秣ノ補給ナク師團ニ於テ集成ノ微癢
隊ヲ編成シ糧秣補給ヲ企圖セラレモ其ノ結果ハ湖州攻撃ニ第一線兵
力ヲ微弱ナラシメ作戰ニ大ナル支障ヲ与ヘ追及レ得ス

一面糧秣ノ補給アリ、斯ル狀況ニ於テ前線兵ヲ後方ニ残置スルハ有害
無益ニシテ戦力ニ著シキ損失等キヲ以テ將來避クルヲ要ス戦況上各隊ハ通
宜ノ處置ニ委ヌルト共ニ大ニ兵站ノ敏速ナル活動ヲ期待ス

又師團ニ迅速ナル輸送機關裝備ヲ必要トス

ニクリク湖沼多キ地帯ニ於テハ各級指揮官ハ一層進路偵察ノ必要ヲ痛
感ス亦中小隊等攻撃前進ノ爲ニハ近巨島ニ地形搜索ヲ派遣スルノ著
意必要アリ

三城壁ニ對スル攻撃ハ限リ屋上ニ階等ト領シ土壕銃眼等ヲ設キ重軽
機ヲミテ射撃セシムルコトハ効果大ナリ

八二二七九七
八二二七九七
八二二七九七

朱吳村附近ノ
戦斗

朱吳村附近ノ戦斗

一戦斗開始及終了日時

自十一月十三日午前十一時三十分
至十一月十四日午後四時三十分

ニ彼我ノ兵力

八友軍(計歩兵約三中队ト三分隊MG九挺)

⑤ ITL RMG 1A (平射砲一分隊) 第七中队三分隊 6 組 8 IMG 1台

備考

第七中队主力ハ旅團予備

第六中队主力 (IMGヲ附ス) ハ旅團直轄ニテ本道方面ノ敵ヲ

攻撃す第五中队ハ十月二十日ヨリ戦重砲兵第七西聯隊ハ掩

護、第四、第六第七ノ各四十名及(IMGハ)ハ師團徴發

子隊
朱吳村附近、蔣ハ石直系ノ正規軍ニシテ機関多

数ヲ準備スル約一大隊

(2) 湖州附近蔣ハ石直系ノ正規軍ニシテ自動火器ヲ多数有

スル約一大隊

三本戦平ニ於テ戦死傷者

ノ戦死者三名(准士官一名ヲ含ム)

6 准尉山田義一 昭和一三、一、二ニシガニ、五湖州東四頭部貫通銃創ニ依リ戦死

2 戦傷者十七名 (准士官一名ヲ含ム)

7 准尉林並生 昭和一三、一、二ニシガニ、三湖州ニ於テ右工藤部貫通銃創ニ依リ戦死

四 本戦斗ニ於ケル功績顯ハル者左ノ如シ

第ニ大隊長少佐 児 森 高 植

右者當初先遣隊長トシテ敵ニ遭遇スルヤ集中火ノ中ヲ竟トセス奮然ニ向フテ猛撃ヲ加ヘ敵ニ精神的打撃ヲ與ヘ又湖州城攻堅ニハ率先先頭ニ立テ部下ヲ激励シ敵ヲシテ総退却ヲ止ムナキニ至ラシメタリ其ノ武功ハ拔群ナルモノト認ム

聯隊本部少尉滝 澤 壽

右ノ敵ニ遭遇スルヤ沈着機敏良ク敵情地形ヲ洞察シ聯隊ヲシテ決心ノ資料ヲ與ヘ補佐ノ任ヲ全フシ當時聯隊ノ兵僅アリシモ遂ニ多大ノ効果ヲ得タリ其ノ武功ハ特ニ拔群ナルモノヲ認ム

聯隊本部通信班長少尉中條寧富
右有敵火ノ中ヲ良ク聯隊長ヲ補佐シ其ノ企圖ヲ判断シ
率先部下ヲ叱咤激勵シ聯隊本部旅團司令部間ニ有線連
絡ニ任セシメ、ノミナラス自ラ數回ニ亘リ聯隊本部ト第一線ニ連結
シ聯隊ノ意圖ノ如ク部隊ヲ區署ニ以テ戦斗ヲ有利ニ導キタリ
其ノ勇猛果敢ナル行動ハ衆ニ範タルモノニシテ其ハ武切ハ拔群
ナルモノト認め

第六中隊

准尉

林

並

付

右有敵ニ遭遇スルヤ左方ヨリ猛射スル敵ノ撃退ヲ命ゼルヤ部下ニ分
隊ヲ以テ奮然敵陣ニ肉迫シ敵彈ヲ受クルモ怯マス遂ニ敵ヲ撃退シ
主力方面ノ戦局ヲ有利ニ導キタルモノニシテ其ハ武切拔群ナルモノト認

第六中隊長中尉

野口禮一郎

右者堅固ナル城壁ニ依リ頑強ニ抵抗スル敵ヲ意トセス僅少ナル部下ヲ叱咤激勵率先先頭ニ立ツテ奮戦遂ニ敵ヲ激退シ湖州城ヲ占領セリ其武功ハ拔群ナルモノト認ム

聯隊本部書記軍曹

永井

甚カ

右者敵彈雨中ノ中ニ在リテ沈着機敏連絡ノ任ヲ完シ適ニ敵彈ヲ受^{受_受}~~受~~モ怯ムス適時適切ナル敵情ヲ報告シ遂ニ敵陣ヲ有利ニ導キタリ其ノ武功拔群ナルモノト認ム

聯隊本部傳令上等兵 余田 光 三

右ノ者平素ヨリ不眠不休傳令勤務ニ従事中適ニ朱吳村附近ニ於テ敵ニ遭遇スルヤ敵ヲ集中火ヲ受タルモ意トセス奮戦能ク

0232

數回三旦リ第線ニ重要ナル傳令ヲ任務ニ後事ニ又隊長ノ先
急ヲ身ヲ以テ護リタルモノニシテ其ハ武功拔群ナルモノト認め

聯隊本部銃工伍長水間新

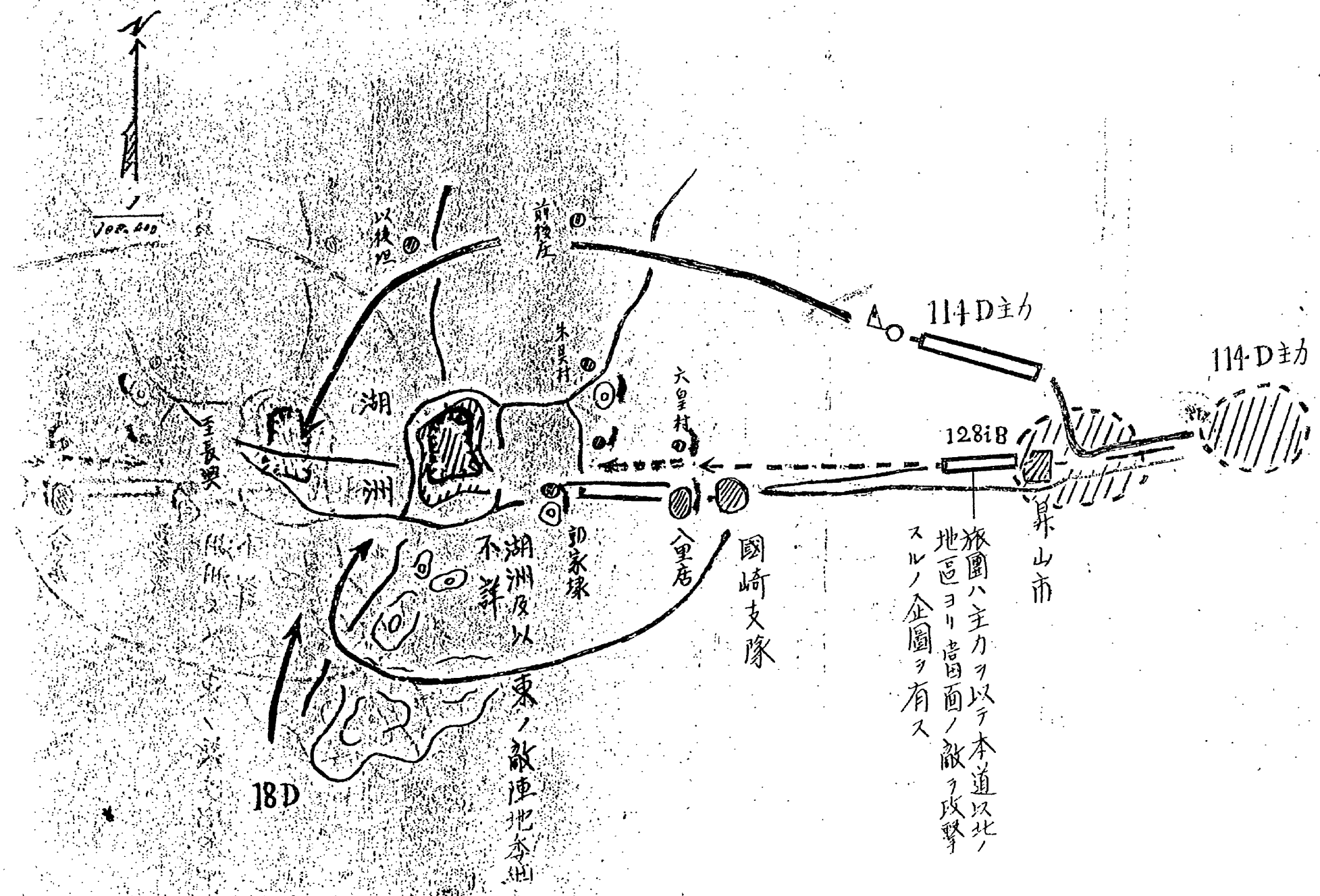
右者敵ニ遭遇スルヤ本道上ニ殘置ノ命ヲ受クルモ兵器毀壞ノ
場合ヲ顧慮シ自ラ進デ本隊ニ續行シ敵彈雨注ノ中ニ在リテ
鹵獲銃ヲ以テ敵ヲ狙撃シ或ハ連絡線係ヲ截斷中ニ彈大
腿部ニ命中セシモ怯マズ續行セタリ
其ハ武功拔群ナルモノト認め

聯隊本部通信手上等兵田村一郎

右ノ看彈丸雨注ノ中ヲ意トセズ奮然ハ聯隊旅團司令部間ニ看
線連絡ニ任シ自ニ敵彈ヲ受クルモ怯マズ補線ヲ実施スル
等遂ニ通信連絡ヲ確立スルヲ得タリ其ノ責任觀念ノ旺
盛ナルハ他ノ範トスル所ニシテ其ハ武功拔群ナルモノト認め

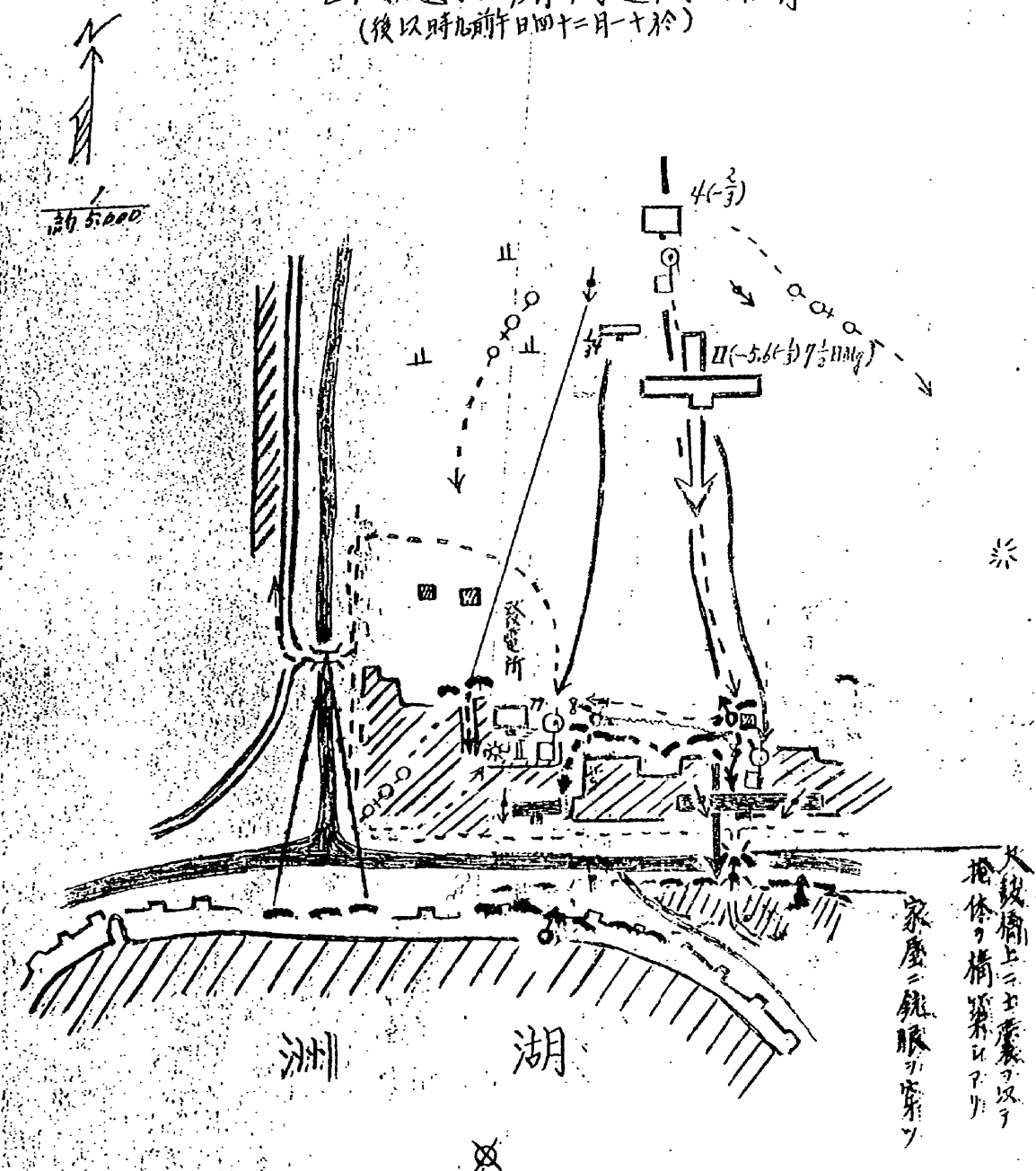
圖要勢形我彼ルケ於ニ前闘戦
(朝日三十一日一十於)

附圖第一



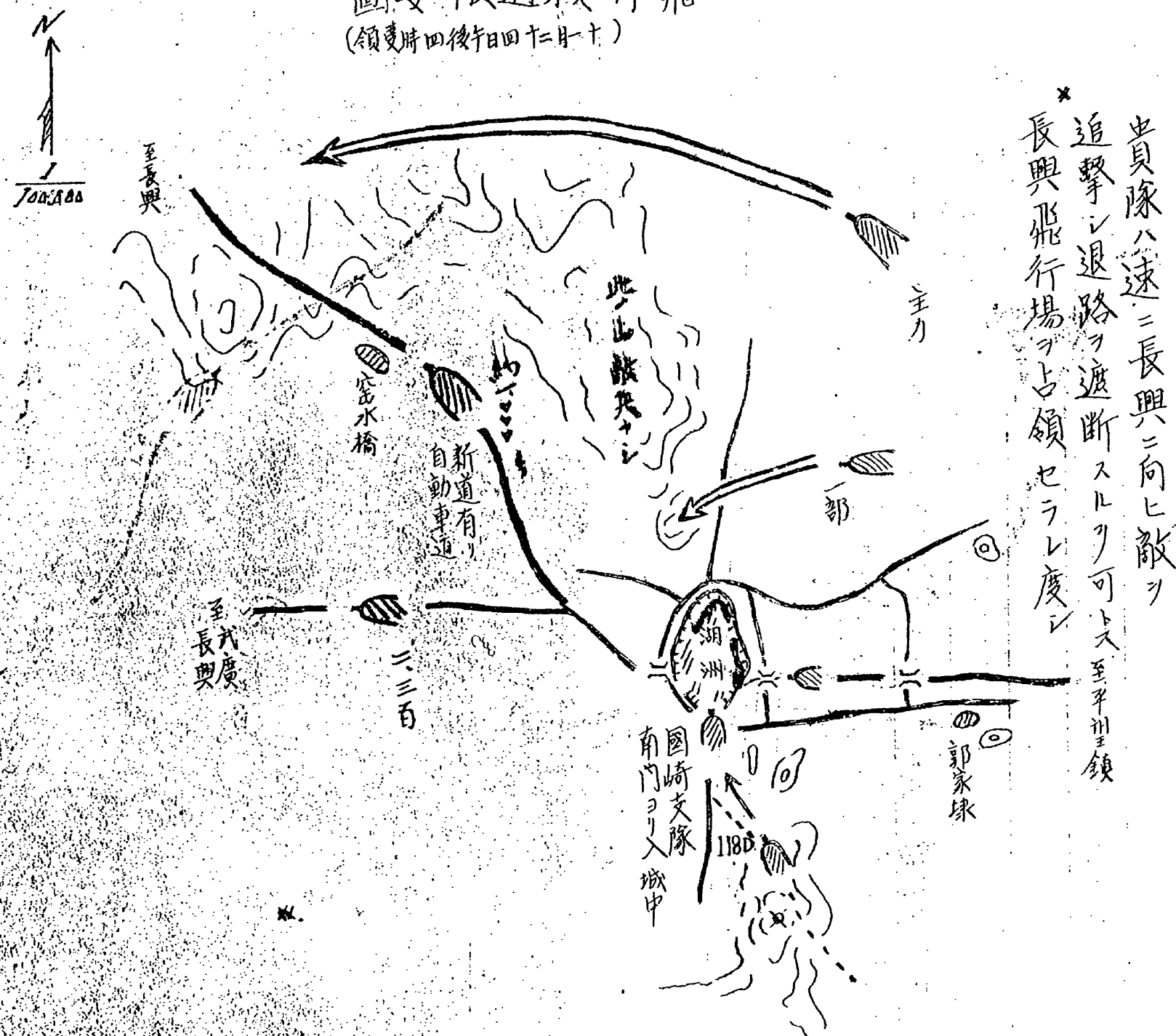
湖洲附近戰鬪經過要圖
(於十一月十四日午前九時以後)

附圖第二其二



圖要報通機行飛

(領受時四後午日四十二月一十)



十月二十日
晴天

中隊橋本
長與高敵
多敵手ス
衆獨進
戦中

一、二十五日正午、突如、先頭ヲ以テ、雷水橋北方山脚附近ニ達セシ時、俄然前方ニ軒家、
敵機関銃及小銃ノ猛射ヲ受ク。當時、隊長ハ所要ノ指揮機関ヲ隨行尖兵中
隊長ノ位置ニ在リテ、行進中ニシテ、当初ハ友軍ノ射撃ニアラサルヲ確メタル後、
敵第ニ線ハ兵力約一大隊ト判断シ、即時独断敵ヲ攻撃スルニ決シ、先ツ尖兵中
隊長ニ自ラ命令スルト共ニ、滝澤副官、中隊通信班長ヲシテ、左記要旨ノ命令
ヲ逐次ニ傳達セシム。

命令要旨

一、聯隊ハ独断当面ノ敵ヲ攻撃セントス

二、尖兵中隊(第四中隊)ハ直ニ軒家ノ敵ヲ攻撃スヘシ。第二機関銃ノ小隊ヲニ

配屬ス

三、第八中隊ハ最左翼ヨリ敵ノ右側背ヲ攻撃スヘシ

四、第七中隊(中隊長ノ指揮スル一小隊機関銃一分隊ヲ屬ス)ハ右第一戦右前方高

地頂上ヲ占领主カ、右側背ヲ掩護スヘシ

五、爾余ノ諸隊ハ道路ノ左側ニ停止スヘシ

聯隊長ハ直ニ第二大隊長ヲ招致シ左方線ノ指揮ヲ委ヌ同時聯隊機関銃
一小隊ヲ配屬シ次ヲ第一中隊ノ一小隊ヲ指揮下ニ復歸セシム

爾後ニ於ケル敵情並ニ戰鬥經過ノ概要附圖第一、第二、第三ノ如シ

歩兵第一五〇聯隊命令

十一月二十五日午前四時
於 瀧 水 橋

一、第一線部隊ハ極力現在ノ線ヲ確保シ敵ヲ數手退スヘシ

二、機関銃ハ主力ヲ以テ獨立高地ニ并シ集中射撃ヲナスヘシ

三、第三大隊長ハ一小隊ヲ聯隊本部西南側森林附近ニ差遣シ右側方ヲ掩護セ

シスヘシ

四、聯隊機関銃ハ一銃ヲ以テ高地上ノ敵重大器射撃也ノ一銃ヲ以テ左側掩護

ニ任スヘシ

五、通信班ヲ以テ聯隊本部ヲ基點トシ第一戰大隊及旅團司令部前ニ有線

通信網ヲ構成スヘシ

聯 隊 長 山 本 中 佐

右命令ヲ達スルト共ニ右第一戦タル茅之中隊ノ高地占領ヲ督励ス

敵隊兵力ヲ増加シ来リニテ大隊ト推定セラレ線信号彈ヲ合同ニ全線狀ヲ猛射シ
午前五時頃赤色信号彈ヲ揚ゲ喇叭ハ小笛ヲ用ヒ前後三回ニ亘リ逆襲シ来ル特
ニ聯隊本部正面ハ猛烈ヲ極ム各部隊ハ勇猛壯着而モ協同宜シキヲ得數分ニ
シテ之ヲ撃退ス敵ハ本道及西側地區ニ死体約一〇〇個及武器ヲ遺棄シテ旧陣地
ニ敗退ス右前方高地ノ敵ハ頑強ニ抵抗シ茅之中隊ノ攻撃困難ノ情況ニ在リ
聯隊長ハ森下中尉ヲシテ情況ヲ旅団長ニ報告セシメ且ツ電話ヲ以テ本隊連絡
ス午前五時三十分旅団長ハ戦線視察ヲタメ來部セラレ聯隊ノ状況及爾後ノ戦斗
指導ノ方針ノ報告ヲ受ケ左記要旨ノ旅団命令ヲ下達セラル

旅 団 命 令 要 旨

一、旅團護衛小隊ヲ貴隊ニ復帰ス

二、歩兵第百十五聯隊ノ一中隊ヲ招致中ニシテ到着次第貴官ノ指揮下

ニ入ラシム

旅團命令受領後新隷下部隊ヲ左ノ如ク區署ス

一旅團護衛小隊(力)ヲ第ニ中隊長ノ指揮下ニ復シ右前方高地ニ急進高地占領ニ関シテハ特ニ左右両側ノ警戒ニ留意セシム

ニ歩兵第百十五聯隊ノ第十二中隊(ハ小隊欠)ハ当分聯隊ニ備隊トシテ第ニ中隊ニ増加ノ準備ニアラシム

午前六時三十分頃ヨリ右前方高地ニ於テハ彼我猛烈ナル爭奪戦ヲ演ゼリ聯隊長ハ直ニ歩兵第百十五聯隊ノ第十二中隊(ハ小隊欠)ニ高地ニ増加ヲ命ス同時頃ヨリ本道方面ノ敵動搖ノ色アリ敵ハ迫撃砲ヲ亂射シ我前進ヲ拒止セルモ本道方面ノ第一線部隊ハ勇敢ニ追撃ニ繰リシカ旅團長ノ意旨ニ基キ長驅スルコトナリ停止シ追撃ヲ射撃ニ繰レリ

午前八時三十分右前方高地ハ激戦ノ後第ニ中隊及機関銃分隊ニ依リ完全ニ領有セリ敵ハ北方及西方山脚ニ向ヒ退却セルモ我猛烈ナル追撃ヲ射撃子ニヨリ

一五〇名死体ヲ遺シ敗退ト步兵第百十五聯隊ノ第十二中隊更ニ到着シ戦果拡張ニ
協力ス敵自撃砲前射撃ヲ絶續シ第線ニ死傷アリ時ニ友軍飛行機上空
ニ現レ我要求ニヨリ之ヲ爆撃スルニ及ビ敵全ク敗走セリ時ニ午前九時三十分アリ
當時衛生隊未着ニシテ隊附軍医初療ニ忙殺セラルキ前々時師團司令部又
兵第百七旅團ノ先頭到着ス

旅団兵第百二十八旅團命令

十月二十五日午前十一時十分
於 鹿 木 橋

一敵情ヲ就テ諸官ノ知レル通り

師團ハ長興ニ向ヒ敵ヲ追撃ス

秋山支隊ハ長興ニ向ヒ敵ヲ追撃ス

一自旅團ハ長興ニ向ヒ敵ヲ追撃セリトス

三歩兵第百十五聯隊ノ一中隊(機関銃小隊ヲ附ス)ハ尖兵中隊トナリ長興ニ向ヒ前

進スヘシ

四爾余ノ諸隊ハ本隊トナリ 歩兵第百十五聯隊ノ一小隊 旅團司令部 歩兵第百十

五、聯隊ノ主力ノ順序ニ兵中隊、後方約五〇米ヲ前進スヘシ

六、兵隊百五十聯隊ハ傷者ノ收容ヲ終了次第主力ノ後方ヲ追及スヘシ

五、余ハ本隊ノ主力ニワキヲ行進ス

右命令ニ基キ衛生隊僅少ナルヲ以テ死傷者ノ運搬並ニ護衛ノタメ步兵ニ小隊ヲ残置シ左記行軍序列ヲ以テ旅団主力ニ追及ス

8-200^m
17L 7(-3) 25 4(-3) 4RG 4

斯レニ二十日午前一時長興ニ入城ス

日 日

命 令

計月二日五時
密 水 橋

一、死傷者後送ノタメ第七中隊ヲ左記人員ヲ差出スヘシ

左 記

小隊長以下五丁名

一、榮橋附近戦闘

一、戦闘開始又終了日時

0242

自昭和十二年十一月二十四日正午
至昭和十二年十一月二十五日午前九時三十分

一、彼我ノ兵力

△友軍ノ兵力

戦斗初期

歩兵第百五十聯隊本部 第三大隊本部 第六中隊ノ一小隊 第七

中隊(欠一小隊) 第八中隊 第三機関銃隊(欠一小隊) 第四中

隊(欠一小隊)

戦斗末期ニ増加セルモノ

歩兵第百十五聯隊第十一中隊(一小隊) 歩兵第百五聯

隊第十一中隊ノ一小隊

△敵軍ノ兵力

約一ヶ聯隊

迫撃砲數門ヲ有ス

三、本戦開ニ於ケル戦死傷者

友軍

戦死

一九 (下士官兵)

戦傷 二九 (内將校三ヶ名)

第四中隊 小隊長 歩兵少尉 渡 先治 二二五 前四五 負傷

第七中隊 小隊長 同 荒木延壽 二二五 前七二 負傷
同日野戦病院入院

RMG 小隊長 同 住吉 一 二二五 前七三 負傷

一、水戦斗ニ於ケル勲功者ノ事績

第二大隊長 歩兵少佐 兒森 高植

右ノ者茅(戰)大隊長トシテ終始敵彈雨飛、中ニ部下各隊ヲ叱咤激勵シ不戦斗ヲ極メテ有利ニ導キタリ 其ノ豪勇ハ指揮官ノ範タルモノニシテ殊勲甲ニ該当スルモノト認ム

第四中隊長 歩兵中尉 河原 信三

右ノ者先兵中隊長トシテ至難ノ任務ヲ達成シ戦斗当初ヨリ第一線ヲ指揮シ機ヲ捉テ優勢ナル敵陣地ニ突入敵ヲ敗走セシメ且數次ノ敵逆襲ニ決然起リ其ノ企圖ヲ破潰シタル其ノ果敢ナル行為ハ殊勲甲ニ該当スルモノト認ム

聯隊副官 歩兵少尉 龍澤 壽

右、者敵彈雨飛、裡ニ在、テ旅団司令部並ニ第三大間ヲ前後數回ニ亘リ連絡シ
又能ク隊長補佐ノ任ヲ完、レ敵並ニ襲撃ニ際、テハ傳令ヲ指揮シ自ラ陣
頭ニ立、テ敵數人ヲ斬、リ軍旗ヲ守護、タル狀着剛膽ナル行為ハ以テ衆ニ
範タルモノニシテ殊勲甲ニ該當セルモノト認ム

通信班長 歩兵少尉 中條 寧富

右、者能ク戰況ヲ洞察シ彈雨ノ中ニ機宜ニ適スル通信網ヲ構成シ積極的
ニ任務ニ邁進シ更ニ敵、並ニ襲撃ニ際、レハ數ノ部下通信手ヲ指揮シ以テ軍旗隊
長ノ危急ヲ救ヒタルハ殊勲甲ニ該當スルモノト認ム

第七中隊長 歩兵中尉 野呂 甚太郎

右、者本道右高地攻撃ヲ命セラル、ヤ夜間險難ヲ冒シ之ヲ奪取シ更ニ數
倍ノ敵並ニ襲撃ニ際、レ敵ト咫尺ノ間ニ壯烈ナル爭奪戰ヲ敢行シ機関銃分
隊ヲ併セ指揮シ克ク任務ヲ達成シタルハ武功拔群ニシテ殊勲甲ニ該當スル

0245

モノト認ム

聯隊本部情報掛 歩兵中尉 木森 下 武

右者敵彈雨飛、中ヲ克リテ線情況ヲ明シテ友軍兵力僅少ナルヲ戰ヲ
於テ適時通知ナル意見ヲ具申シ又自ラ旅團司令部ト連絡ニ任シ以テ聯隊
長ノ戰ヲ指導ヲ容易ナラシメタル武功ハ殊勲トシ該当スルモノト認ム

第八中隊 歩兵中尉 塩澤 治雄

右者当初ヨリ敵彈雨飛スル左第線ニ在リ夜間廣正面ヲ擔當セルモ克リ
部下ノ掌握ヲ確實ニシ屢次ノ敵逆襲ニ際シテハ敢然之ヲ撃退シ戰
捷ノ因ヲ為セリ其ノ武功ハ殊勲トシ該当スルモノト認ム

聯隊旗手 歩兵少尉 山 長堯

右者終始軍旗ヲ守護シ敵彈雨注ノ間克リ軍旗ノ偉容ヲ示シ特ニ
前五時敵ノ大逆襲ニ際シテハ僅少ナル旗護兵ヲ以テ之ヲ排撃シ將其
ノ士氣ヲシテ益々旺盛ナラシメタルハ武功拔群ニテ殊勲トシ該当スルモノト認ム

聯隊至斯掛歩兵少尉 小澤 庄三

右者敵彈兩挺中ヲ數回ニ亘リ聯隊本部並ニ茅原ト連絡シ隊長補佐ノ任ヲ
完シ敵ヲ襲撃シテハ卒先頭ニ立テ直切ニ傳令ヲ指揮シ遂ニ之ヲ撃退セ武
功ハ拔群ニシテ殊勲乙ニ該當ス

茅原銃中隊長歩兵少尉 宮下 興宗

右者終始敵彈數挺ヲ連路附近ニ在リテ敵ヲ猛射セシメ前後數回ニ亘ル敵ヲ襲
ニ際シテハ能ク茅原中隊ト協力シ機敏適切ニ火カヲ集中シ敵ヲシテ遂ニ陣
地ヲ棄テ潰走スルノ已ムヲ得サルニ至ラシメタリ其ノ武功ハ拔群ニシテ殊勲乙ニ
該當スルモノト認ム

聯隊機銃隊 宮崎 分隊

右部隊ハ茅原中隊ト協力シ高地確保ノ任務ヲ受クルヤ宮崎伍長ノ指揮
ヲ以テ嶮峻ヲ克ク歩兵ト行動ヲ共ニシ敵ヲ襲撃ニ際シテハ其ノ特性ヲ發
揮シ企圖ヲ挫折シ同中隊ヲシテ高地確保ヲ容易ナラシメ且敵ノ退却ニ際シテハ

甚大ナル損害ヲ與ヘタルハ武功拔群ニシテ殊勲甲ニ該当スルモノト認ム

通信手 上等兵 小澤 嘉久

常ニ傳令トシテ特ニ勇敢ニ服勞シ通信班長ノ指揮ヲ容易ナシメ又
逆襲シ來ル敵ハ手榴彈各數發ヲ擲行シ其ノ一發ハ既ニ發火投擲
準備シアリシヲ速ニ發見直ニ報告スルト共ニ機ヲ失セス單身敵ニ突
入三名ヲ刺殺セル其ノ勇敢機敏ナル行動ハ能ク聯隊本部ノ危急ヲ救
ヒタルモノニシテ其ノ武功ハ殊勲甲ニ該当スルモノト認ム

人馬現況

歩伍の聯隊本部

將校	下士官	兵	計	乘馬	輓馬	駄馬	計	備考
八	一〇	七五	九三					

軍曹 永井 勘 湖州戦病院入院

上等兵 小澤 嘉久 戦死

第十八師団ヨリ配屬ノ傳騎一ハ原隊ニ復歸ス